

【土地利用】

- ①地区の南側は、行政施設や中小規模のオフィスビルが主で、北側は住宅地が広がっている。
- ②観光資源や飲食店、緑地などが点在している。

【回遊性・交通アクセス】

- ①神戸市営地下鉄、JR神戸線、阪神電鉄が東西を結んでいる。
- ②三宮方面や元町駅南方面からの回遊性が低い(三宮～元町駅南間は高い)。
- ③地区内では南から北にかけて高低差があるためバリアとなっている。(例えば、JR元町駅西口から 北側への歩行者通路)

【観光交流・賑わい】

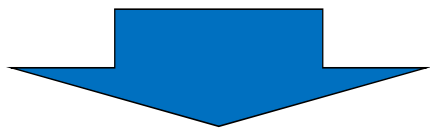
- ①観光資源が存在しているが、核となる集客施設がない。
  - 参考(主な観光資源)
  - ・県公館(行政施設)
    - 毎週土曜日迎賓館部門を一般公開(入場料無料)、映画ロケ地にも使用
  - ・相楽園(日本庭園)
    - 神戸市の都市公園で唯一の日本庭園、重要文化財を有する
  - ・栄光教会(宗教施設)
  - ・諏訪山公園
    - ハイキングコースとして人気、ビーナスブリッジからの夜景は人気スポット
- ②各施設の案内板や休憩スポットがない。

【都市景観】

- ①歴史的建築物を主体とした、景観上優れた建築物が残っている。
- ②まとまった緑地や豊かな街路樹がある。

【建築物】

- ①公的施設(県民会館、神戸総合庁舎、下山手庁舎など)が老朽化している。
- ②県庁舎は施設・設備の老朽化に加え、耐震性能が不足している。



《検討にあたっての視点》

- 様々な土地利用がなされる中、将来的にどのような地区であるべきか。
- 観光・交流の活性化にはどのような機能が必要か。
- 新たな価値の創出に向けて地区内の地域資源をどのように活用していくのか。
- 鉄道施設等を中心とした歩行者動線をどう形成していくのか。また、人に優しい都市空間として、自転車や歩行者空間をどう形成していくのか。
- これからの時代に求められる県庁舎機能や県民活動・交流機能は何か。

